

港区
平成26年度
受賞施設



景観街づくり賞



みどりの街づくり賞



港区

みどりの街づくり賞とは

港区では、昭和54年度から建築計画に伴う緑化計画書の提出を義務付け、緑化の指導を行ってきました。緑豊かな都市づくりには、公共の緑とともに、民間施設の緑化が重要な役割を果たしています。

「港区みどりの街づくり賞」は、優れた緑化計画を行い、その緑地を維持している区民や事業者の皆さんを表彰し、地域緑化への協力に感謝を示すとともに、さらなる民間緑化の発展を願って、平成16年度に創設をしました。

概要

表彰の対象となる施設

- ア 前々年度に完了した建築計画に伴う緑化施設で、港区みどりを守る条例施行規則の緑化基準を原則満たしており、緑化完了届が提出されているもの
- イ 港区みどりの活動員により推薦された施設で、
■ア以外のもの

選定基準

学識経験者、都市緑化に造詣の深い区民及び環境リサイクル支援部長で組織する選定審査会が、以下の選定基準を基に決定します。

- ① 周辺の景観と調和し、優れたデザインであること
- ② 維持管理が適切に行われていること
- ③ 自然環境の保護と再生に努めていること
- ④ 建築物と植栽地がバランスよく配置されていること
- ⑤ 既存樹木を活用していること
- ⑥ 生き物にやさしい植栽計画になっていること
- ⑦ 在来植物を取り入れていること
- ⑧ 地域社会とのつながりを持ち、
地区への貢献が高いこと
- ⑨ 先進的な技術を取り入れていること
- ⑩ 施工と仕上がりの水準が高いこと

賞の種類

1. みどりの街づくり賞 3点(■アを対象とする)
 2. 特別賞 2点(■イを対象とする)
- 詳細は毎年度選定審査会で決めています。



港区

景観街づくり賞とは

港区では、平成21年度に「港区景観条例」を施行し、景観行政団体となって、景観法に基づく取り組みを始めました。そして、良好な景観形成を図るべく「港区景観計画」を策定し、同計画の景観形成基準に沿うよう、区民や事業者の皆さんにご協力いただいています。

「港区景観街づくり賞」は、良好な景観形成に功績のあった優れた民間の施設や活動を表彰することで、広く景観に対する意識の向上を図るとともに、魅力ある街づくりを推進するため、平成23年度に創設しました。

概要

審査

港区景観審議会委員等で組織する選定審査会が受賞施設等の選定を行います。

景観街づくり賞

表彰の対象となる施設

表彰を行う年度の前々年度に、港区景観条例に基づく完了報告書が区に提出された民間施設のうち、特に良好な景観の形成に功績のあったもの

選定基準

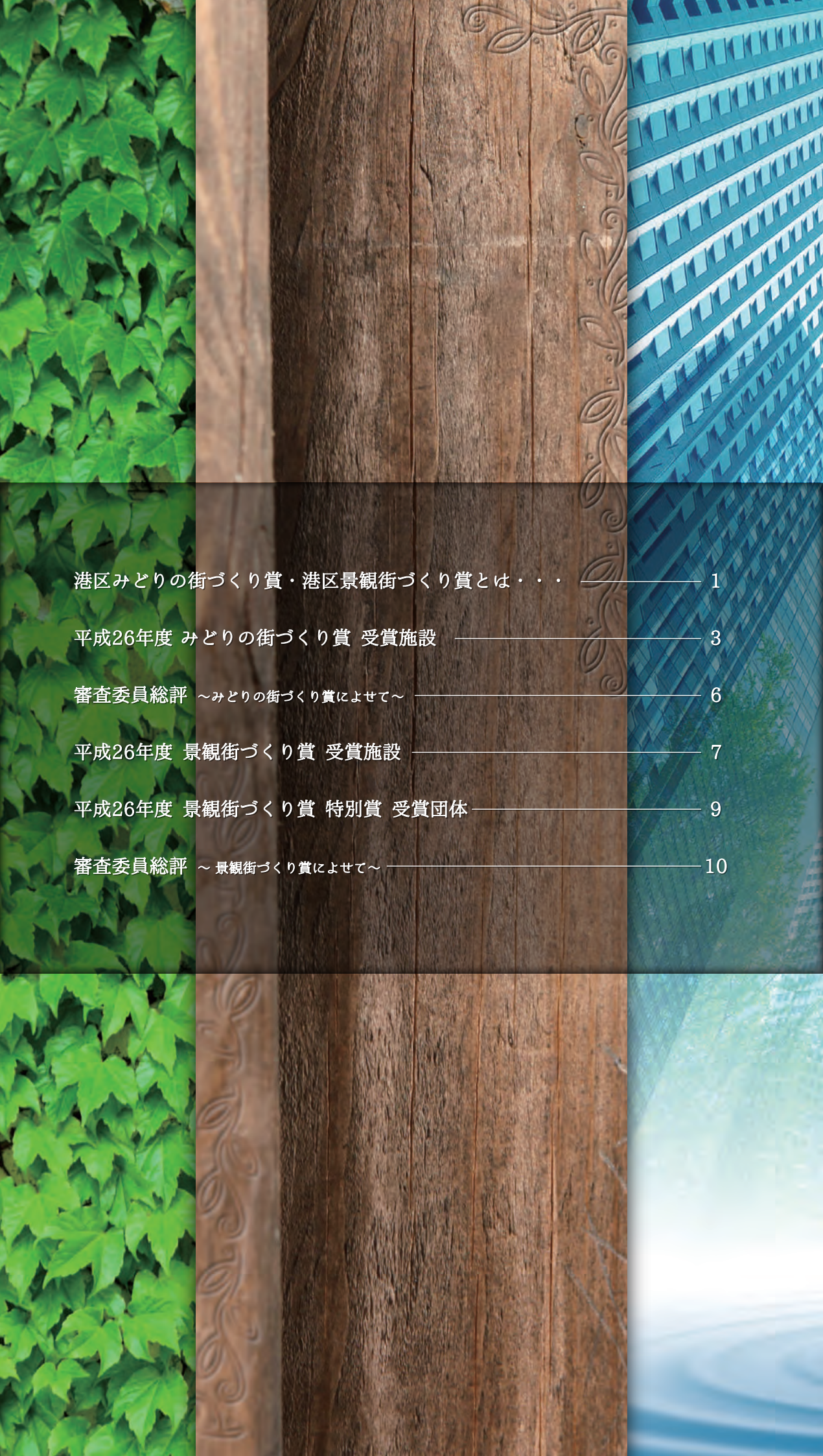
- ① 周囲からの見え方に配慮があり、
周辺の街並みと調和しているもの
- ② 建築物、植栽等がバランスよく配置されており、
憩いと安らぎを創出しているもの
- ③ 地域特性を生かしており、
まちの魅力の向上に貢献しているもの
- ④ 地域社会とのつながりを持ち、区民等への貢献が高いもの
- ⑤ 都市景観の創造に先導的な役割を果たしているもの

賞の種類

1. 景観街づくり賞
2. 景観街づくり賞奨励賞

景観街づくり賞特別賞

「景観街づくり賞特別賞」は、港区景観条例による届出対象以外の、良好な景観形成に功績のあった施設や活動に対し、感謝の意を込めて表彰します。



港区みどりの街づくり賞・港区景観街づくり賞とは・・・ 1

平成26年度 みどりの街づくり賞 受賞施設 3

審査委員総評 ～みどりの街づくり賞によせて～ 6

平成26年度 景観街づくり賞 受賞施設 7

平成26年度 景観街づくり賞 特別賞 受賞団体 9

審査委員総評 ～景観街づくり賞によせて～ 10

目次

平成26年度 みどりの街づくり賞 受賞施設



みどりの街づくり賞



アークヒルズ仙石山森タワー

- 管理者: 森ビル株式会社
- 設計者: 森ビル株式会社
- 所在地: 虎ノ門5-5-1・六本木1-9-10,18
- 施設用途: 事務所、共同住宅、店舗、駐車場
- 敷地面積: 15,881.18㎡
- 緑化面積: 5,393.95㎡
- 接道部緑化延長: 406.9m
- 緑化面積率: 34%
- 接道部緑化率: 86%



施設概要

テーマのある植栽ゾーンにそれぞれ四季の訪れを楽しめる空間づくりがなされ、立体的に広がる敷地を有効的に活用している。

「こげらの庭」と名づけられた人工地盤上に作られた庭には、里山林、草地そして水辺の植物による生態池があり、誰でも自然散策が楽しめる空間を提供している。

生物多様性の重要性にいち早く着目し、緑化の計画を行うなど、環境への積極的な取り組みは評価に値する。





港南ビル

- 所有者：港南商事株式会社
- 設計者：株式会社石橋徳川建築設計所
- 所在地：港南2-5-7
- 施設用途：事務所、店舗、駐車場
- 敷地面積：856.83㎡
- 緑化面積：487.67㎡
- 接道部緑化延長：36.87m
- 緑化面積率：57%
- 接道部緑化率：60%



施設概要

道路沿いの植栽に奥行きを持たせるため、一階部分をピロティ形状にするなど、緑化に対する積極的な姿勢が窺える。

屋上部は、周辺の高層ビルからの景観に配慮し、中低木からなる豊かな緑空間を創出している。さらに地上部には、隣接地との間に遊歩道を設け、四季の移ろいを楽しめる花木や草花の植栽を施すなど、近隣の方からも親しまれる植栽計画となっている。

平成26年度 みどりの街づくり賞 受賞施設



みどりの街づくり賞

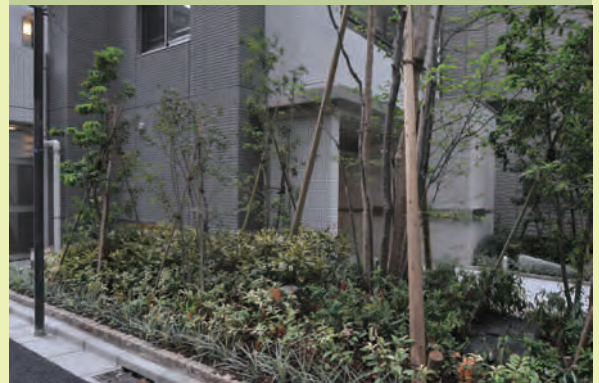


ザ・パークハウスアーバンス 御成門

- 事業者：三菱地所レジデンス株式会社
- 設計者：株式会社ジー・ワイ設計
- 所在地：新橋6-6-8 ●施設用途：共同住宅
- 敷地面積：447.84㎡ ●緑化面積：62.84㎡
- 接道部緑化延長：47.65m ●緑化面積率：14%
- 接道部緑化率：60%

建物外周部に高木や生垣からなる複層の植栽帯を設けるなど、接道緑化が充実しており、比較的緑量の少ない地域に安らぎある心地よい空間を生み出している。特に、敷地の四隅に配置したジュンペリーの植栽は印象的で、春先には鳥が実をついばむ姿が見られる。エントランスには、高木の足元にも草花を植え、細部に渡って維持管理がされており、おもてなしの心が表れている。

施設概要



審査委員総評 みどりの街づくり賞によせて



千葉大学大学院 園芸学 研究科 教授
審査委員長
赤坂 信

「みどりの街づくり」の目標を
あらためて考えてみよう

「みどりの街づくり」に貢献することとは何かを今回も考えさせられた。あくまで街を歩く人にとって、いかにあるべきかが考慮されていることが欠かせない点だと思う。ここでは社会性、公共性が問われる。極論すれば建主がどうであれ、そこ(街)を歩く人に対する気遣い、サービスがどうなのかが重要な争点となる。今回は突出しているものはなかったが、それだけに選出する段階で作品が横並びになって審査過程でかなり議論を要した。大規模な建築であれば、道路(歩道、公共スペース)に接する面が大きい故に、そこに用意できる「みどりの街づくり」に貢献できるチャンスが大いにあるはずだが、今回は小さな敷地面積でも十分これに應えるものが入選した。周りに似たようなマンションがあるだけにその相違は際立つ。植栽の工夫と手入れが他と違うということか。また生物多様性に配慮した設計も入選を果たした。ただ生物多様性をうたったにしては面積があまりに狭い。今後こうした傾向が普及すれば、目標を達成する日が来るかもしれない。最後に屋上緑化の事例で入選した件だが、関係者以外には公開していないという点では公共性に欠ける。しかし、これをさらに高いビルから眺められる緑と考えると、ビルから眺められる緑が今後増えていくことに期待したい。



港区景観アドバイザー
東京大学大学院 工学系 研究科 助教
古賀 誉章

植えられるみどりにとっても
やさしい環境を

今回も港区らしい、様々な地域や様々な種類の建物などバラエティーに富むみどりが出揃った。賞創設当初に比べると、審査対象物件のみどりの質は向上してきているが、同時にその差も縮まってきていて、世の中全体として緑化に対する考え方が成熟してきていると感じる。評価という点でいうと、地域や建物種別などから期待されるみどりのイメージが何かあって、その期待に対してどう応えているのか、どう超えているのか、というのがポイントとなっている。その点、毎年少しずつ期待値が高くなっていることや、大規模計画に対して辛めの評価なのは、一貫した傾向である。いまや、単に建物を装飾するためにみどりを纏うのではなく、植えられるみどりにとつてもやさしい計画が重要だと思われる。それがひいては、そのみどりを享受する利用者や生き物たちの快適につながっていくに違いない。



港区景観アドバイザー
日本大学短期大学部 准教授
(有) GAYAMAザキ 代表取締役
山崎 誠子

緑化ではなく、
みどりのおもてなしへ

毎年書いていることだが、年々この賞の候補対象となるもののグレードがあがっていることはとても喜ばしい。緑を多く設置することで表彰されていた初期から、少なくとも効果的で地域にとって誇れる緑の景観を作っているもの、そこに集まり、仕事や生活をする人にとっての憩いのスペースとなるものや、新しい発想の緑化技術の評価対象としてきた。緑化の量、緑化の技術も大事だが、今年のみどりの効果を事業者、持ち主が深く考える気持ちがあふれるものに好感をもつて評価した。上からの目線で指示された緑化基準などに気にせず、管理についても柔軟な考えを持ち、構えることなく、みどりが人の暮らし、港区の景観に必要不可欠であると感じ、素直に表現したものが今後も増えることを期待したい。そうすれば、お仕着せではない、港区のみどりのおもてなしが伝わる景観が作れるはずである。



公益社団法人
観音崎自然博物館 理事
高橋 雅雄

開発者は
さらなる社会的「景づくり」への努力を

今年の受賞候補作品は、昨年同様その出来ばえには大きな差異は見られなかった。このことは建築物周辺の緑化への配慮や技術が徐々にレベルアップしていることを感じた。植物、水、岩石などを用いて作り出す立体造形作品は常に新鮮さが追及され、見る者へ驚きと感動を与えることが求められている。その中であって生態系への配慮は当然であるが、同時に視覚的にも美しく、自然の生命力の逞しさや不思議さ、その歴史性など、様々な要素を織り込んだ作品が求められている。

「借景」という造園手法がある。外の景を内なるわが景に取り込むことだが、今日ではわが景を外からの視線に晒すこと、言いかえれば、わが景を外へお貸しする意識が求められている。さしずめ「借景」の対語としての「貸景」が当てはまる。しかも、他人様にお貸しするからには、「よりよいものを」の気配りが加わればなお素晴らしい。これからのみどりの景づくりに貸景がキーワードになることを期待したい。

平成26年度 景観街づくり賞 受賞施設



景観街づくり賞



パークコート 六本木ヒルトップ

- 事業主：六本木一丁目南地区市街地再開発組合
- 設計者：清水建設株式会社
- 所在地：六本木一丁目7番10号
- 施設用途：共同住宅、店舗
- 敷地面積：3,199.03㎡
- 高さ：106.4m



概要

- ▶ 快適な移動と憩いを提供する、風情ある坂の整備
- ▶ 近隣と調和し、品格を感じさせる外装・外構の素材と色彩
- ▶ 近接する道路と連続させた桜並木の形成



東京のまちの景観の魅力の一つに「坂」がある。港区の景観計画でも、坂の景観、あるいは坂からみる景観を重要な要素ととらえている。パークコート六本木ヒルトップを中心とした計画は、そのような地形の魅力を再認識させる効果を生んでいる。古くからの坂、御組坂を歩行者専用にして、近隣のオフィスワーカーに快適な移動と憩いを提供し、かつてと比較して短くなったとはいえ、土に近い色あいの舗装材を用いるなど、風情のある坂として、これまで以上に親しまれるようになったと思われる。周辺一帯は大使館が立ち並び、文化施設も集まる都内有数のお屋敷町である。その周辺に合わせた外装・外構の素材と色彩は品格を感じさせる。落ち着いた外壁は隣接ホテルと類似の色調と素材感でつながりを持たせている。古くからの街区が存在していたかのようにまとまりを感じさせ、近隣の格調ある雰囲気になじみ、住宅街としての静けさもつくりあげている。また近接する道路と連続させた桜並木をつくり、人気スポットの充実に役買っている。1階に outlet したスーパーマーケットも、都心型の控えめな外装デザインや看板で、にぎわいと調和の両立を目指している。駐車スペースをすべて地下にする等の基本構想が功を奏して、地域にふさわしく、歩きやすい空間を作り上げ、心地よい景観を生み出すのに成功したように感じられる。

審査委員コメント



赤坂センタービルディング

- 事業主: 関電不動産株式会社 ●設計者: 株式会社日建設計
- 所在地: 元赤坂一丁目3番13号 ●施設用途: 事務所・共同住宅
- 敷地面積: 4,536.94㎡ ●高さ: 99.54m

概要

- ▶ 都心にふさわしい端正で風格のある柱と、街並みに溶け込むシンプルなデザイン
- ▶ 起伏を活用し、工夫を凝らしたきめ細かいオープンスペース

審査委員コメント

豊川稲荷東京別院との間のオープンスペースの新しいデザインと、本社ビルという風格からくる重厚なビルのデザインから、議論が分かれ、難しい審査を勝ち取った案件である。端正で、風格のある柱によって構成されるこのビルは、赤坂という都心にふさわしいと判断することができる。遠方から見ると少し黒っぽく見えるビルもコンクリートとガラスというシンプルなデザインで街並みに溶け込んでいる。エントランスについては、天井までの広いガラスに囲まれた1階が、オープンスペースと同化している。オープンスペースは起伏を活用し、緑量だけを狙った植栽デザインと異なり、工夫を凝らしたきめ細かいものとなっており、優しいデザインとなっている。



ホテル&レジデンス六本木

- 所有者: シマダハウス株式会社
- 設計者: 有限会社伊藤博之建築設計事務所
- 所在地: 西麻布一丁目11番6号
- 施設用途: 店舗、ホテル、共同住宅
- 敷地面積: 1,098.23㎡
- 高さ: 45.85m

審査委員コメント

最終候補5作品の内2作品が既存改修計画であった。両計画とも商業施設であり、魅力的にするための改修であるから、残るだけの理由があった。このプロジェクトはホテルと分譲住宅をホテルとサービスアパートメントに再生させたものである。六本木通りと生活道路の角地にあり、両方の道路に対して1階部分に店舗を開放的に配置し、程良い緑とテラスを効果的に用いて街路の賑わいと魅力づくりに貢献している。控えめな素材選択と丁寧な細部のデザイン、サインや照明が建築と一体となり、六本木の都会的で大人の感覚に心地よく響いてくる上質な空間をつくりあげていた。足元周りは多くの委員から高評価を得たが、一方で高層棟の独特の形態とその処理に疑問が残る。最終的には奨励賞に留まった。

概要

- ▶ 角地の両面に配置した店舗、緑、テラスによる、街路の賑わいと魅力づくり
- ▶ サインや照明等が建築と一体となり、都会的で大人の感覚に心地よく響く上質な空間の創出

平成26年度 景観街づくり賞 特別賞 受賞団体

港区アドプト・プログラム - 道路・公園のボランティア活動 -



港区アドプト・プログラムとは

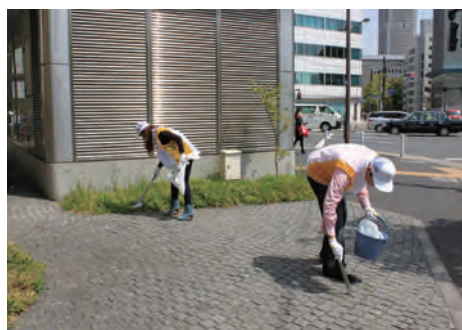
港区アドプト・プログラムは、地域の方々が道路・公園の維持管理(清掃や花壇管理等)を自主的に行う活動のことです。区民等が相互に協力し、地域の共有財産である道路・公園等の緑化活動や清掃等を行うことにより、道路・公園等への愛着心を深め、利用者のマナー向上と清潔で快適な街づくりの推進を目的として、平成14年度から実施しています。



活動継続5年を経過した団体

今年度の受賞団体

今年度の受賞団体は、港区アドプト・プログラムで活動継続5年を経過した団体です。地域の皆さんが主体となり、継続的に清掃・修景活動を行うことで、身近な景観街づくりに大きく貢献していただいています。区から感謝の意を込めて、特別賞として表彰します。



平成26年度表彰対象 アドプト登録団体 (活動継続5年を経過した団体) 一覧

| 団体名 | 活動内容 | | 団体名 | 活動内容 | |
|--------------------------------|---------|----|------------------------|---------|----|
| | 花壇・植栽管理 | 清掃 | | 花壇・植栽管理 | 清掃 |
| The Montessori School of Tokyo | | ○ | プリティッシュ・アメリカン・タバコ・ジャパン | | ○ |
| 白金INDOR | ○ | | カナデン大門地区有志 | | ○ |
| 高輪親睦会 | | ○ | 緑色家園 | ○ | ○ |
| 桂坂を花いっぱいにする会 | ○ | | | | |

※受賞団体は、平成26年3月末現在で活動継続年数が5年を経過した団体です。

問い合わせ

アドプト・プログラムについて

各総合支所協働推進課土木係 / 芝地区 TEL 3578-3131 / 麻布地区 TEL 5114-8803
赤坂地区 TEL 5413-7015 / 高輪地区 TEL 5421-7615 / 芝浦港南地区 TEL 6400-0032

審査委員総評 景観街づくり賞によせて



港区景観審議会会長
東京工業大学大学院
社会理工学研究科 教授

齋藤 潮

ささやかでも大きくても良い仕事を

審査委員諸氏に代わり、今年度の検討経緯の概要をご報告いたします。まず、平成24年度に工事完了報告書が提出された作品48件のうち、景観アドバイザーの推薦を経て5件が授賞候補となりました。6月10日午後、審査委員全員で5件を実見。7月1日に審査委員会を開催。各人が5段階評価を行ないました。その集計結果をもとに検討を重ね、今年度は1件に景観街づくり賞を、2件に奨励賞を授与する運びとなりました。基本的な選定基準は5つ設定されていますが、これに委員独自の評価眼が加味されます。にもかかわらず、六本木の超高層住宅は、委員6名の評価がいずれも4以上でした。エクステリアの広範かつ綿密な計画・設計が支持されました。なお、審査では新築と改築の別は不問にしました。仕事やささやかでも大きくても、港区の景観形成にその事業ができる精一杯のことをしてその効果が認められるなら評価したい。これが審査委員会の共通認識です。麻布の改築では街角を彩る愛情あふれる仕事や、赤坂の新築ではオーブンガーデンに注がれた細やかな気遣いが評価されました。施主、設計者の皆様に感謝の意を表します。



港区景観審議会副会長
株日本カラーデザイン研究所
景観事業部担当部長

杉山 朗子

地域性を活かし、
日々の生活の質の向上に
貢献する景観街づくり

住民や在勤の人々の日々の生活の質の向上に貢献するのが、景観への取り組みの一つの役割だと考えています。木を一本植えることによって緑陰が生まれ、暑さから少し遠ざかることができます。見慣れた色の構成で、心おだやかに過ごせる空間が形成され、気持ちの良さが地元への愛着と誇りにつながる。景観街づくりとはそんな些細なことの積み重ねではないでしょうか。地域の地形や植生、文化などの特色を生かし、そのよさを改めて感じてもらえるようにつくりあげること、重要でしょう。坂のまち、多様な人が集う文化、さらに先進性の融合したまちを育て上げようと取り組んでいる計画に出会うと、ほっと心がなごみます。規模の大きさだけでなく、技術の高度さだけでもなく、地域の未来を信じて、今やっておくべき事に地道に取り組んでいる心意気を感じるからだろうと思います。今年も景観街づくり賞として、そんないくつかの事例を紹介でき、一安心しました。



港区景観審議会委員
千葉大学大学院
園芸学研究科 教授

池邊 このみ

景観はまちの資産、
景観の再生で
まちに活力がうまれる

本区の景観賞に応募される案件は、非常に高レベルであり、年を追うごとに審査が厳しくなってきています。特に観点としては、景観というものの捉え方にその理由があります。色や形態が、誰の目からみても街並みに溶け込むものは、多くの人間が理解しやすいです。でも、港区のような風格や都市として東京を牽引していく区に建設される建物には、デザインとしてもハイレベルで、まちのポイントとなるようなものも必要です。景観には調和というものが重んじられますが、似たようなデザインのオフィスビルの林立や、みるからに予算をかけたという感じだけが伝わるマンションだけでは、次世代の港区の資産となりません。景観は、ビルやマンションの所有者だけでなく、街の資産として捉えられるものです。そういう意味で、今年からリニューアル案件がはいってきたのは楽しみです。まちの再生は、「コミュニティの再生にもつながる大事な景観の役割です。」



港区景観審議会委員
(区民委員)

川田 延子

細かな配慮が
明日へつながる街づくり

「景観街づくり賞」の選定という特別な目的で、建築物・植栽・街並みなどを細かに或いは遠く近くに見ることは、私にとって多くの発見がありました。審査対象となった建築物は、それぞれに工夫をこらし、限られたスペースに様々な心配りが感じられました。特に景観街づくり賞を受賞した建物は、閑静な周囲に相応しい風格あるもので、高いビルにマッチした高木や水辺の植栽・又坂を利用した歩道空間等、処処に細かい気配りが見られ、以前からそこにある周りの建物と相俟って、優雅な空間を醸し出しています。他方、幹線道路沿いの狭い土地を利用した建物は、交通量の多い所にありがちな目立つ色彩も使わず、道行く人の目を楽しませてくれるような憩いの場が、狭いところに設けられているのを見ると微笑ましくなります。このようにちょっとした周囲への配慮が、にぎわう街・明日を育む街づくりへとつながっていくのだと感じました。

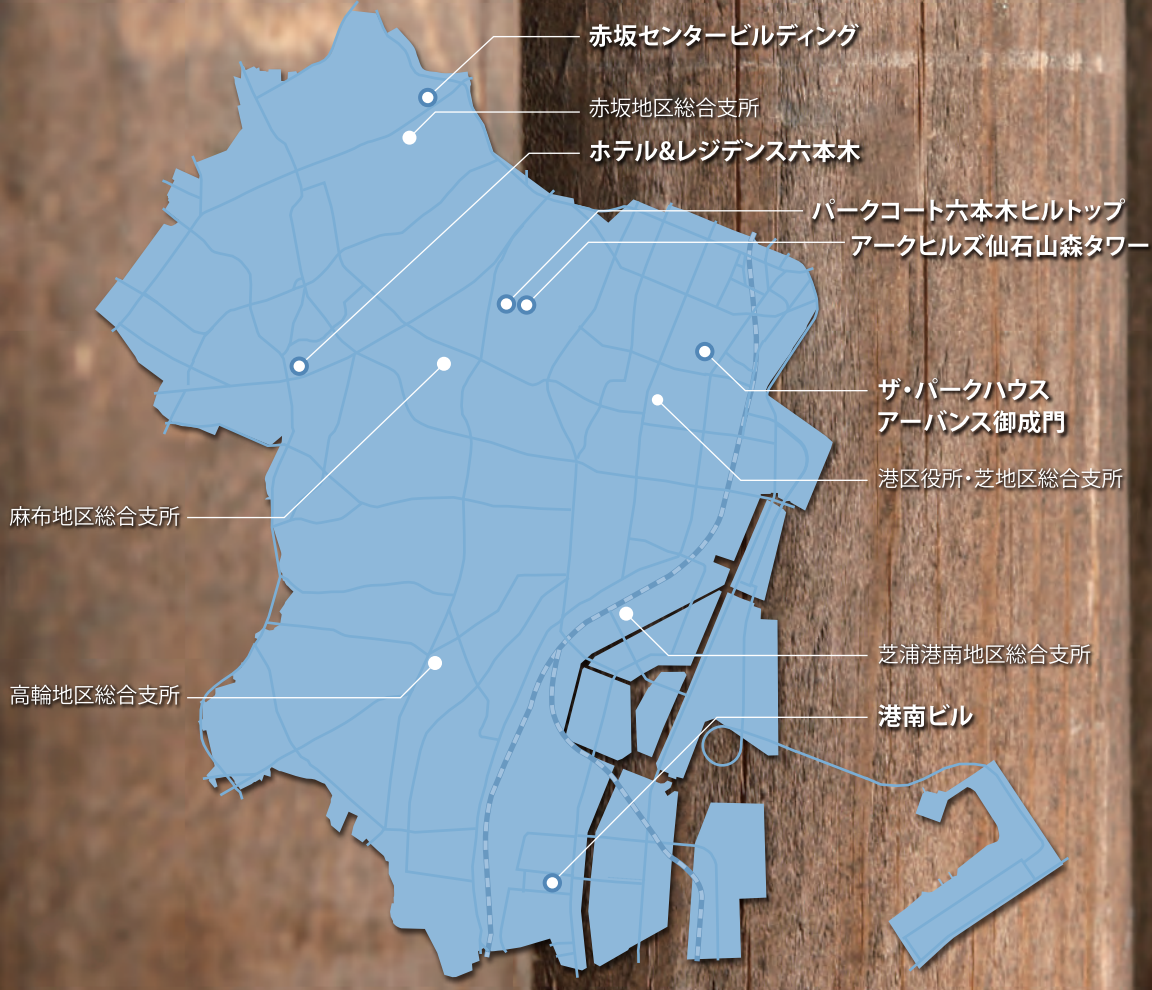


港区景観アドバイザー
株佐藤尚巳建築研究所
代表取締役

佐藤 尚巳

都市の魅力向上に感謝

港区では毎年同時期に「景観街づくり賞」と「みどりの街づくり賞」の審査が行われる。景観の評価には緑の占める割合が大きく、この二つの賞の候補に同一作品が残るケースも多く、ダブル受賞も起こり得る。「みどりの街づくり賞」は、対象事業や既存建物の緑が、どのように計画、施工、維持、管理されて、街の魅力向上に貢献したかがポイントで、景観的には近景の領域の環境の質を評価するものである。一方で「景観街づくり賞」は近景ばかりでなく、中景、遠景からも対象事業の街や都市に対する貢献度を評価するものである。近景での緑を含めた空間、賑わい、環境への貢献度、通りを歩く時(中景)に感じられる街路や周辺環境との調和や貢献度、遠景で見えてくる都市環境全体への貢献度、の3つの評価ポイントを総合的に判断して優れた計画に対して与えられるべきものと考え、賞を獲得したパークコート六本木ヒルトップは、建築デザインに斬新さがないとの意見も聞かれたが、全ての観点で配慮され好印象で、全委員が高く評価をした。奨励賞の2作品は近景での評価は高かったものの、中景、遠景での見え方に疑問が残る評価が割れた。



みどりの街づくり賞
 港区環境リサイクル支援部 環境課
 港区芝公園1-5-25 / 電話:03-3578-2330



景観街づくり賞
 港区街づくり支援部 都市計画課
 港区芝公園1-5-25 / 電話:03-3578-2204

